

＜研究課題名＞		D-1007		高人口密度地域における孤立した霊長類個体群の持続的保護管理	
＜研究概要＞					
孤立小集団の存続可能性についての生態学・集団遺伝学的研究と、小集団にしばしば壊滅的打撃を加える人獣共通感染症の実態と予防策についての研究を進める。また、世界各地の生息地および個体群の分断化の現状とその原因を分析してデータベース化する。さらに、これらの研究成果をもとに、我々が直接保護政策のプランニングにかかわれるいくつかの地域で生息地の維持・回復と個体群の維持管理についての有効なプランを立てて実行し、その地域の霊長類個体群の存続に具体的な貢献をする。また、これらの成果を国際シンポジウムなどの場で発信し、世界各地の霊長類の保護活動に貢献する。					
(1) 最小存続可能集団の定義にむけた孤立個体群の生態学的・集団遺伝学的研究 地域個体群内部の集団間関係や個体の移出入に関する生態学的研究と、個体群のサイズや分断化の歴史と遺伝的多様性の関係に関する集団遺伝学的研究を進め、優先的に保護すべき地域個体群を選定する際の学術的基準の作製に貢献する。 (2) 孤立個体群における人獣共通感染症のリスクアセスメントとサーベイランス 地域個体群の健康状態のフィールドでのモニタリングシステムを確立するとともに、糞サンプルを用いた抗体検査によって人獣共通感染症の有無と種類を調べる方法を確立する。これらの成果を組み合わせ、感染症のサーベイランスのプロトコルと感染防止のためのガイドラインを作成する。 (3) 孤立個体群の現状分析と生息地の維持・回復のための生態学的・社会学的研究 主な調査対象地域となる日本、東アジア、南アジア、赤道アフリカについて、絶滅危惧種となっている霊長類の地域個体群に関する生息地面積、植生、個体数、人口動態等の情報をまとめ、データベース化して公開する。また、上記の研究成果をふまえつつ、いくつかのモデル地域個体群について保護政策の立案と実証的研究を行う。					
＜研究代表者＞		古市 剛史		京都大学霊長類研究所社会進化分野・教授（53才）	
No.	サブテーマ名			氏 名	所属機関名・部局・役職名
(1)	最小存続可能集団の定義にむけた孤立個体群の生態学的・集団遺伝学的研究		◎	古市 剛史	京都大学霊長類研究所社会進化分野・教授
				川本 芳	京都大学霊長類研究所ゲノム多様性分野 准教授
				今井 啓雄	京都大学霊長類研究所遺伝子情報分野 准教授
				半谷 吾郎	京都大学霊長類研究所生態保全分野 准教授
				林 美里	京都大学霊長類研究所思考言語分野・助教
				辻 大和	京都大学霊長類研究所社会進化分野・助教
(2)	孤立個体群における人獣共通感染症のリスクアセスメントとサーベイランス		○	明里 宏文	京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター・教授
				鈴木 樹理	京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター・准教授
				マイケル・ハフマン	京都大学霊長類研究所社会進化分野・准教授
				橋本 千絵	京都大学霊長類研究所生態保全分野・助教
				宮部 貴子	京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター・助教
(3)	孤立個体群の現状分析と生息地の維持・回復のための生態学的・社会学的研究		○	伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター・教授
				松沢 哲郎	京都大学野生動物研究センター・教授
				幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター・教授
				杉浦 秀樹	京都大学野生動物研究センター・准教授
				村山 美穂	京都大学野生動物研究センター・教授
				中村 美知夫	京都大学野生動物研究センター・准教授